

和田明子議員の11月県議会一般質問の答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)からご覧いただけます。



＊ ＊加齢性難聴への補聴器購入費補助について＊ ＊

和田 加齢性難聴の対応では、特定検診に聴力検査を加えることや、聴力検査の必要性を知らせること。また、補聴器購入に補助している自治体が広がりつつあり、補聴器購入への補助は必要な施策と考える。

健康福祉部長 聴力検査の受診勧奨など、啓発を図っていきたい。公費による負担は、効果を検証する研究で実証され、国による制度化が必要と考えている。

＊ ＊知事会見のリアルタイム字幕表示について＊ ＊

和田 知事会見で手話通訳が行われているが、リアルタイム字幕表示はできないか。音声認識アプリを活用すれば聴覚障がい者や外国人への多言語翻訳もでき、情報提供ができる。リアルタイムでの字幕配信を行ったらどうか。

企画振興部長 障がい者団体等の意見も伺い、より良い情報発信の方法を検討したい。

＊ ＊新型コロナウイルス感染症について＊ ＊

和田 第5波では自宅療養者が全体の4割になり、軽症・無症状でも容態が急変するコロナ感染は自宅療養ではなく入院・宿泊療養が基本ではないか。今後の感染拡大に備えて臨時的医療施設の開設はどうか。

健康福祉部長 県では医療機関による質の高い健康観察を行っており、症状が増悪した場合は直ちに入院できる体制を整えている。酸素投与が必要な中等症の患者を収容できる臨時的医療施設の開設を考えている。

和田 確保病床が6割程度の入院で病床がひっ迫した地域では、一般の患者の受け入れにも制限があるなど医師・看護師など医療人材が足りない。

健康福祉部長 県では、必要な方が入院できなかった事態は避けられたと認識している。

和田 コロナ感染症の後遺症に苦しむ方が多いが、どう支援するのか。

健康福祉部長 後遺症には、相談対応とともに適切な医療機関を紹介できる体制を整えている。

和田 コロナ対応で保険所の保健師などを増やして乗り切ったが、正規職員増を進めてほしい。

健康福祉部長 保健所は必要な人員体制の確保を維持していきたい。

＊質問を終えて＊

県知事の会見など、情報提供をより多く、より正確に伝えるために、音声認識アプリ・UDトークの活用で、字幕表示や字幕配信を提案しました。実現できるよう引き続き取り組みます。

